

2026年6月11日

各 位

東京都千代田区麹町三丁目2番4号
会社名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代表者名 代表取締役社長 天沼利彦
(コード番号: 7777)
問合せ先 取締役 茂木龍平
電話番号 03 (3511) 3440

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：天沼利彦、以下「当社」）は、本日付で開示いたしました「2026年4月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

当社は、前連結会計年度まで継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しておりました。事業継続に必要な資金は、主に、投資ファンドのハイツ・キャピタル・マネジメント・インク（以下、「ハイツ」という。）に対する転換社債型新株予約権付社債の発行並びに新株予約権の発行及び権利行使により調達しておりました。これらの資金調達手段は、株式市場の動向や株価の下落等により資金を確保できないおそれや、早期償還条項の適用により最終償還日より前に返済を求められるおそれがあったため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められるものとして「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

しかしながら、グループ全体では業績改善の途上であるものの、当連結会計年度には、米国子会社における業績拡大が進んだことを主因として営業利益及び営業活動による営業キャッシュ・フローのプラスを計上するまでに至り、その結果、当連結会計年度末における現金及び預金残高は2,830百万円となっております。これに加えて、ハイツに対して発行した全ての転換社債型新株予約権付社債の償還又は転換が完了したことにより、早期償還条項の適用により最終償還日より前に返済義務を負うおそれもなくなっております。さらには、取引金融機関と交渉し、新規の当座借越契約及び既存のコミットメントラインの融資枠の拡大も行われております。

以上のことから、当社グループにおいて、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は解消し、当連結会計年度末の翌日から1年間の資金繰りに重大な懸念はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断した結果、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしました。

株主の皆様、取引先をはじめとするステークホルダーの皆様には、大変ご心配をおかけいたしました。今後もさらなる業績改善及び企業価値向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上